

集 つどい

横浜ルネサンス
Yokohama Renaissance

特集.1 対談「野毛大道芸 成功の秘密!?」

福田 豊 & IKUO三橋

プロデューサー

特集.2 横浜「集」の仕掛けたち

玉置 宏・福寿祁久雄・小室 恒彦

木村 浩吉・春口 廣・ジルゴーリ

●山崎洋子 エッセイ「明るい闇鍋」

●松岡真宏 アナリストの「横浜ノート」



○ 横浜信用金庫

集

横浜ルネサンス
Yokohama Renaissance

特集1

8

野毛大道芸成功の秘密!?



ギョーザ屋・野毛「萬里」主人
福田 豊さん

文 & 談
(株)むごん劇かんば(い主宰
Ikuo Miyanagaさん



おやじたちの「遊び心」から生まれた
野毛大道芸フェスティバル

4

写真で見る 横浜の歴史 文化・スポーツ篇



表紙：中区・開港広場の石畳（撮影／川村たかを）

特集2

横浜「集」の仕掛け人たち



14

ENTERTAINMENT
「横浜にぎわい座」館長
玉置 宏さん



16

FILM
中央興業(有)専務取締役
福寿祁久雄さん



18

JAZZ
ジャズスポット「ドルフィー」オーナー
小室 恒彦さん



20

SOCIAL
横浜マリノス(株)「ふれあいサッカー」
プロジェクト・ディレクター
木村 浩吉さん



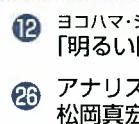
22

SPORTS CLUB
横浜カントリー＆アスレティッククラブ
総支配人
ジル・ゴーリさん



24

RUGBY
関東学院ラグビー部監督
春口 廣さん



26

ヨコハマ・ショートエッセイ①
「明るい闇鍋」山崎洋子
アナリストの「横浜ノート」
松岡真宏 (UBSウォーベーグ証券 株式調査部長)
2002年ヨコハマ・イベント・カレンダー(10月～12月)
クラシックライブ・スケジュール
次号予告

31 ヴィフレド・ラム展 開催のお知らせ

「横浜ルネサンス」発行にあたって

1859年の開港以来、横浜は日本を代表する港まちとして、また、商業・文化・流行の情報発信地として繁栄を続けてきました。これまでには大きな震災があり、戦争があり、混沌の時代も続きましたが、21世紀を迎えた現在でも、横浜は「先進的でオシャレな国際都市」といううれしいイメージを保ち続けています。

このまちは先人たちの試行錯誤、創意工夫、成功や失敗の繰り返しの結果、今の姿になりました。ハマトラを生み出した元町や、横浜のエキゾチズムを代表する中華街の存在、市民と行政の協力によって成功を収めた新しいまちづくりやイベントなども、すべては進取の気風にあふれる横浜の人たちのチャレンジ精神、起業家精神のたまものといえるでしょう。



明治末から大正初期の賑町・喜楽座前 (横浜開港資料館蔵)

2003年7月、横浜信用金庫は創立80周年を迎えます。『よこしん』はいつの時代も変わらずに、地域のみなさまの暮らしや事業のサポートに幅広くお応えしてまいりました。そして私たちはこのたび、「横浜発」の3冊の小冊子を発行することにいたしました。

ここで紹介するのは観光客のカメラに向かってポーズを取る横浜ではなく、なによりも、このまちに暮らし、このまちでチャレンジを続ける横浜が大好きな方々の声です。

第1号のテーマは、横浜の文化・スポーツを特集した「集(つどい)」。横浜のまちとともに育ってきた『よこしん』は、これからも横浜とともに歩んでまいります。

『横浜ルネサンス』制作室・スタッフ一同

横浜の歴史 写真で見る

文化・スポーツ篇



根岸競馬場（現・根岸森林公園）は日本最初の近代競馬場として1866年に完成した。以後、戦争のために中止されるまでの75年間、春と秋に競馬会が開催され、後に「天皇賞」となる「天皇の花瓶賞」も、1880年に1万人の観客を集めて行われたと『横浜スポーツ百年の歩み』に紹介されている。現在、同公園の隣にある根岸競馬記念公園では、馬の博物館も開館している（写真は明治後期の春競馬）。（横浜開港資料館蔵）



伊勢佐木町通りには、1880年代から芝居小屋や料理屋などが集まり、閑内と閑外を結ぶ繁華街として発展した。1899年の関外大火で多くの劇場が焼失したが、これ以降は再建された賑座（横浜にぎわい座の名称の由来となる）、喜楽座など、今の伊勢佐木町3丁目にある賑町界隈が劇場街の中心となった（『100年前の横浜・神奈川』より）。写真は大正初期の賑町で、右奥に見えるのが喜楽座（横浜開港資料館蔵）

●横浜開港前夜～太平洋戦争終結まで●

1853年(嘉永6年)7月	ペリー蒲賀来航	1901年(明治34年)	慶應のラグビー部、横浜外国人チームと初試合（慶應の敗退）
1859年(安政6年)7月	横浜開港（陰暦6月2日）	1904年(明治37年)2月	日露戦争が始まる
10月	横浜最初の芝居小屋（劇場） 「下田屋」が北仲通に開場	1911年(明治44年)12月	「オデヲン座」が長者町に開館
1868年(明治元年)11月	横浜クリケット・クラブ（現・YC & AC）発足	1914年(大正3年)7月	第一次世界大戦が始まる
1872年(明治5年)6月	横浜～新橋間で鉄道が開業	1923年(大正12年)7月	有限責任神奈川県在郷軍人信用組合（後の横浜信用金庫）設立
1889年(明治22年)4月	横浜に市制が施行	9月	関東大震災が起こる
1894年(明治27年)8月	日清戦争が始まる	1941年(昭和16年)12月	太平洋戦争勃発
1897年(明治30年)3月	住吉町の「港座」でフランス系のシネマトグラフ上映	1945年(昭和20年)8月	太平洋戦争終結

※年表の日付は太陽暦で表記しています。

横浜が開港して今年で144年目になります。3世紀にわたる激動の時代のなかで、横浜から新しいもののはじめが起り、多くの人たちがこの港まちにやってきました。今回は横浜の文化とスポーツにスポットを当て、その歴史を写真と年表でたどってみました。



1937年、磯子区浦頭に生まれた美空ひばり（本名・加藤和枝）さんは、1946年に「アテネ劇場」（磯子区）で初舞台を踏んだ。そして1949年、初主演となった松竹映画、「悲しき口笛」（写真）が大ヒットし、瞬く間に日本を代表するスターへの道を歩み始める。1989年没、享年52。ひばりさんを偲び、中区宮川町にたてられた「美空ひばり像」を訪れる人が今も絶えない（写真提供／ひばりプロダクション）



今年6月、横浜のまちはFIFAワールドカップ一色に染まった。横浜国際総合競技場では9日に「日本対ロシア」戦が開催され、30日には「ブラジル対ドイツ」の決勝戦のハイッスルが鳴った。結果は2-0でブラジルが5度目の優勝を成し遂げたが、この決勝戦では今大会最高の6万9029人の観客が「夢の対決」に酔いしれ、フィナーレを飾る折り鶴が舞い降りるなか、会場の興奮は最高潮に達した（写真提供／神奈川新聞社）



横浜の夏の夜空を彩る恒例の神奈川新聞花火大会は、毎年8月1日に開催される。今年は直径480メートルにも及ぶ関東最大級の「二尺玉」をはじめ、市民の協力によって夜空を飾る「市民の花火」。小学生から募集した絵をもとに制作した「夢の花火」など、みなとみらい21地区臨港パーク前海上において約8000発の花火が打ち上げられた。横浜港を舞台にした光と音の魅惑に、訪れた観客は「真夏の夜の夢」を心ゆくまで楽しむ。

●平成元年～現在まで●

- 1989年(平成元年) 3月 横浜博覧会(YES'89)開幕、横浜美術館がオープン
- 6月 横浜市制100年、開港130周年記念式典開催
- 1993年(平成5年) 6月 第1回フランス映画祭横浜開催
- 10月 第1回横濱JAZZプロムナード開催
- 1995年(平成7年) 12月 横浜マリノス、Jリーグ・チャンピオンシップで優勝
- 1997年(平成9年) 1月 第73回箱根駅伝で神奈川大学が初優勝
- 関東学院大学、ラグビー大学選

- 1998年(平成10年) 4月 手権で初優勝
- 第70回選抜高校野球で横浜高校が優勝
- 8月 第80回全国高校野球選手権大会で横浜高校が優勝
- 10月 横浜国際競技場オープン
- 横浜ベイスターズ、日本シリーズで優勝
- 2002年(平成14年) 4月 横浜にぎわい座オープン
- 6月 FIFAワールドカップ、横浜国際競技場で決勝戦開催

●戦後～昭和の時代●

- 1947年(昭和22年) 5月 横浜国際劇場オープン
- 1951年(昭和26年) 10月 信用金庫法施行に伴い横浜信用組合が横浜信用金庫に組織変更
- 1953年(昭和28年) 2月 テレビ放送の開始
- 6月 横浜開港記念みなと祭 第1回国際服装行列開催
- 1955年(昭和30年) 10月 神奈川県で第10回国民体育大会開催
- 1958年(昭和33年) 5月 横浜開港100年祭記念式典
- 1971年(昭和46年) 8月 第53回全国高校野球選手権大会で桐蔭学園が初出場で優勝

- 1973年(昭和48年) 4月 第45回選抜高校野球で横浜高校が初出場で優勝
- 1978年(昭和53年) 4月 横浜スタジアム開場
- 1980年(昭和55年) 2月 第1回ヨコハマ映画祭開催
- 1981年(昭和56年) 9月 第1回本牧ジャズ祭開催
- 1983年(昭和58年) 3月 横浜で第1回国際女子駅伝開催(優勝はソ連)
- 1985年(昭和60年) 12月 横浜市の人口が300万人を突破
- 1986年(昭和61年) 4月 第1回野毛大道芸フェスティバル開催



1958年、横浜は開港100周年を迎えた。5月10日には平和球場(現・横浜スタジアム)で開港100年記念祭式典がとりおこなわれ、翌11日の国際服装行列には70万人の大観衆が詰めかけて、祭り気分は最高潮に達した。本町通りにはパレードが通るたびに拍手と紙吹雪が舞う。徒步の部では野毛商店街の女性チームが踊った「百年前の異人館と兵隊さん」(写真)が見事1位を獲得(写真提供／神奈川新聞社)



1971年夏、第53回全国高校野球選手権大会は、東北代表の磐城高校と神奈川代表の桐蔭学園で決勝戦が行われた。降りしきる雨の中、1-0で桐蔭学園が勝利をおさめ、初出場・初優勝の快挙を成し遂げた。神奈川県勢の優勝は、前年の東海大相模に次いで2年連続、湘南、法政二と合わせて4度目だったが、桐蔭は横浜市にはじめて深紅の大優勝旗を持ち帰った(写真は宙に舞う桐蔭・大冢投手。提供／神奈川新聞社)

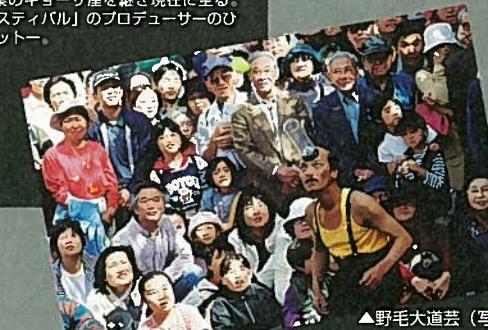
おやじたちの「遊び心」から生まれた 野毛大道芸フェスティバル。

ギョーザ屋・野毛「萬里」主人
福田 豊さん
(株)むごん劇かんばにい主宰
IKUO三橋さん

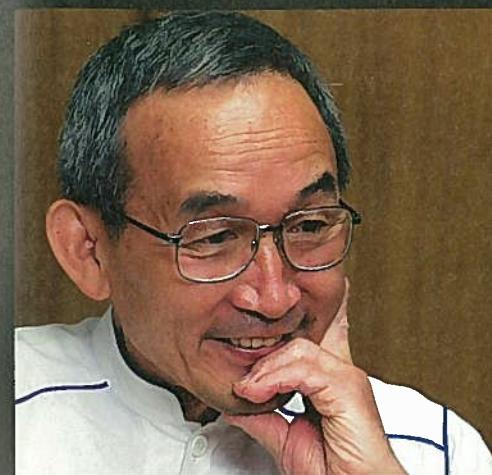
対談



(株)むごん劇かんばにい主宰
IKUO三橋さん



▲野毛大道芸（写真提供／森直実）



福田 豊（ふくだ ゆうか）
1941年、中国・天津生まれ。野毛にあるギョーザ屋「萬里」主人。終戦後、両親弟妹とともに引き揚げて以来、横浜に在住。成蹊大学卒業後、（株）電通PRセンターを経て、家業のギョーザ屋を継ぎ現在に至る。86年から始まった「野毛大道芸フェスティバル」のプロデューサーのひとり。「料理は最良、心は不良」がモットー。



IKUO三橋（いくあ みつはし）
1945年、横浜市生まれ。日本大学卒業後、演劇の世界に入る。その後フランス人演出家、ニコラ・バタイユと出会い、71年に渡仏。76年にはパリ国立サークัส学校で3年間、マイム科の講師となる。86年から「野毛大道芸フェスティバル」を5年間プロデュース。現在、横浜・野毛で「むごん劇かんばにい」を主宰。

野毛大道芸成功の秘密！？

1983年（昭和58）、野毛の商店街の有志たちは「野毛文化を育てる会」を発足。定期的に会合を持ち、野毛の文化について真剣に話し合っていた。それから約20年、当初は10人ほどの有志から生まれた野毛大道芸フェスティバルは、今や野毛の通りからM21、伊勢佐木町にまでその開催エリアが広がり、今年4月の2日間で芸人200人、観客50万人以上を集め世界的なフェスティバルにまで成長した。その成功の秘密はどこにあるのか？ 野毛大道芸の成り立ちを知るお二人に、草創期の話をお聞きした。

「野毛文化を育てる会」からすべては始まった。

福田 最初、「パパジョン」（※注1）で会つたんだよね。そのときにIKUOちゃんが、昭和60年の「春の野毛祭」で大道芸やつたときの話をしたんだよ。野毛の客は異様な雰囲気だよ、つて。

福田 昭和61年の4月に第1回野毛大道芸フェスティバル（※注2）は開催したわけだけど、今の野毛大道芸の原型をつくったのはIKUOちゃんなんだもんね。

三橋 女房がオルガン回して、僕がパンтомime。それでちょっと大道芸っぽいもの入れようつて足長はいて呼び込んだら、200人くらいのお客が地べたに座つたまま1時間くらい動かない。なんだ、これ？ 我々いつも渋谷の「ジャンジャン」とかで舞台やつてて、苦労して客集めても10人くらいしかいないのに。日本つていいところじゃないかって思った。その話を「パパジョン」でしたんだよね。

福田 それでも、次から野毛祭は大道芸でやろうと。三橋 軽い感じで福田さんは言つたんだと思うけど、おれは本気でやるんだたら、世界的な祭にしなければおもしろくないと思っていた。フランス・アヴィニヨンのフェスティバルとか、イギリスのエンバラ・フェスティバルとか。でもそんなこと話しても、半信半疑でだれも信用しない。世界的な祭にしたって言つたって、どうやってなるんだと。

福田 最盛期には200人になつたんだよ。入退会は自由。野毛に住む住まないはこだわらない。だれだっていいよというシステムで、しかも無責任に、会費を使いつぶすよ。前例がないと。そしたら櫻井敏雄さんが、昔、成田山の参道で石田一松さんについてバイオリンを弾いたと言うんで（※注3）。昔の弁士はそうやつて本を売つたわけ。

福田 文献調べたら、かつては成田山の前まで市が立つていたんです。それで「前例あつたよ」と警察に行つたら結局許可取れたんだ。でも、こんな街中で交通ストップできたのは、

からといって、すぐにやる必要はありませんよと。流れたら次の月にすれば、お金も倍使えるわけだから。それだけつこう続いたよね。

三橋 うん、続いた。でも、おやじの趣味を変われらないものであつたはずのものが、世界的なものに、と思ったことからどんどん拍車がかかった。でも、僕は「野毛地区街づくり会」が主催する前の「野毛文化を育てる会」に、ものすごく思い入れがあるんだ。わずか10人くらいの商店や飲み屋のおやじたちが集まつて、かなり真剣に会をやつしていくつくりした。酔払いを相手にしている人たちが、こんなに文化を考えていいいんだろうかつて。それから誘われて会合に出るようになつたけど、僕はおやじたちの心意気をおもしろいなと思った。月2000円の会費で、飲み屋に来る大学教授や野毛以外の住民も巻き込んで、100人くらいの会にして。

三橋 最初、警察に道路の使用許可を取りにいったら、通行止めにできないって言つんですよ。前例がないと。そしたら櫻井敏雄さんが、昔、成田山の参道で石田一松さんについてバイオリンを弾いたと言うんで（※注3）。昔の弁士はそうやつて本を売つたわけ。

当時としては珍しいんだよ。そういう意味では、協力してくれた警察に感謝しています。

大道芸大打ち上げ大会のじゃんけん争奪戦。

三橋 ここが野毛らしいなと思ったのは、初めての大道芸のときビルの屋上に上がつて見たら、街がブルーだったんです。トタン屋根のブルー。焼鳥屋の親子が、野毛の焼け跡から立ち上げてそのままやつてるような。これが続けば野毛は安泰だと思つただけど、最近ブルーがなくなってきたね。

福田 野毛は闇市上がりというか、商売のアマチュアのような人たちが多いんですよ。うちなんかも本当は運送屋やつたのが、それじゃ食えないから、おふくろが中国で覚えた餃子を売つてみたら売れちゃつた。

三橋 最初は街も汚かつたし、アーケードもあつたし、だけど、あれが大道芸の装置になつたんですよ。そのとき僕は街は劇場ということで、来る芸人は拒まず。とにかく1回出してみてだめだつたら次回は遠慮してもらつ。

福田 裸になつちやつた女の人もいたんだよ。踊りをやつたんだけど、へだから投げ銭が集まらない。そしたら全部脱いじやつて、みんなどうしよう、どうしようつて。それでおれんとこに連絡があつて、毛布5枚くらい

持つていってつかまえようとする逃げるんだよ(笑)。次の年も出たいって言つてきたんだけど、さすがに遠慮していただいた。

三橋 福田さん、ちゃんと楽しんでるじゃない(笑)。そういうむちやくちやな部分が、非常に大道芸的つていうか。

福田 それがおもしろいんだよね。

三橋 最初プロデューサーしたときに言つたんですよ。芸人は暇で来ているわけじゃないから、店で余ったものを景品にしてくださいと。そしたら、出るわ出るわ、すごいんだよね。

福田 いろんな景品が集まってきた(笑)。三橋 野毛つて特殊な街で、上へ行けば図書館があり、青少年センターがあり、文教地区でしょ。そこから下つてくると、コンビニからピンク映画館からソーラーランドがありストリップ小屋まで、こんなひとつつの場所にいろいろなものがあるところつてないんですよ。同じ町なんだからと全部に呼びかけたら、全部が協賛するんですよ。そしたら、ストリップ劇場は招待券!これを早野凡平(※注4)さんが絶妙な司会でさばいていく。争奪戦は、じゃんけんなんです。招待券になると、もう

男たちがガーッと出てきて、必死になつてじゃんけん(笑)。

野毛の町と大道芸のこれから。

三橋 今年は、芸人は何人集まつたんだっけ。福田 200人。ずいぶん落としてね。でも落としたくないから、場所を広げたりしてい

※注1 「ババジョン」は、野毛にあるジャズと演歌のショット・バー。

※注2 1986年(昭和61)、第1回の「野毛大道芸」(エスティバル)の出演者は26人、観客は300人を集めた。

※注3 最後の演歌師と称される櫻井敏雄さん(1909~1996)は昭和1933年当時、バイオリン演歌を野毛本通りで演じていた。「のんき節」の大正演歌師、石田一松さん(1902~1956)の愛弟子でもある。

※注4 早野凡平さん(1940~1990)は「帽子芸」などで活躍した昭和の名ボートヴィリアン。

1976年、フランスでIKUO三橋を中心パントマイムグループ【MUGONGEKI】が誕生。81年、三橋さんの帰国にともない横浜で(株)むごん劇かんぱにいとして新たに発足した。フランスにおける舞台実績と、国を超えた多くのアーティストとのコネクションをもとに独創的な舞台を構築。「動きと視覚的」をテーマに、日本で新サークスの世界を開花させている。野毛本通りに面した同事務所に併設する「MGC」は、日本で初めてのサークス用品専門店。ジャグリング体験講座も行っている。

●問い合わせ先/横浜市中区野毛町1-52-207 TEL:045-231-6543(営業時間:10時~18時、土日定休)。ホームページは、<http://www.mugongeki.co.jp/>



野毛「萬里」にて

福田 野毛でも、投げ銭を定着させるまで5年くらいかかりましたよ。最初はお客様も投げ銭の経験がないからね。

三橋 投げ銭というから間違えて本当にお金を投げつけたりしてたんだよね(笑)。

福田 ほかの街では、みんな「形」にお金を払

がないと。知らない人間も出していいみたい。常に意外性とかハプニングは、主催者側がつくりていかないよね。

三橋 今は野毛の大道芸が有名になつたから、はつきりと野毛の投げ銭で儲けようといふ芸人がいますからね。そういう目的で来てます。ということは、それだけお客様がいるということですよ。見に来ている人は払うつもりで来ている。投げ銭がそれだけ定着したんですね。

福田 野毛でも、投げ銭を定着させるまで5年くらいかかりましたよ。最初はお客様も投げ銭の経験がないからね。

福田 ほかの街では、みんな「形」にお金を払

三橋 違うかたちでのリニューアルだよね。だったら、おれもプロデュースできるな。若い芸人は場所を与えることが大切で、それによつて伸びていくんだよ。「大道芸」という遊びがないと、大道芸も芸人も伸びていかないよね。

福田 近所に耳栓配ろうか(笑)。でもそういう遊びがないと、大道芸も芸人も伸びていかないよね。

福田 それ、いいね。やりたいね。

横浜市中区野毛町2-71 TEL:045-231-8011
野毛大道芸の練習場 野毛山プラスコ
野毛大道芸実行委員会が、野毛山公園内の市立図書館の仮庁舎を「野毛地区街づくり会館分室」として横浜市から借り受け、1995年4月にオープンした。鉄骨2階建て、延べ床面積818m²。演劇、踊り、落語などの大衆文化活動のほか、研究会や集会など、地域住民の活動の場として利用されており、国際色豊かな大道芸人たちの練習場としても賑わっている。

●問い合わせ先/横浜市西区老松町63-10 TEL:045-262-1234

運営協力費:10時~18時/3000円、18時~22時/4000円(ともに2時間単位)、地元割引有り。

なお、野毛大道芸のホームページは、<http://www.nogedaidougei.com/>



私

な、中途半端な地域だ。だから当初は、横浜市民であるにもかかわらず東京へばかり足が向いていた。仕事の打ち合わせ、買物、食事、観劇、コンサート、ほとんどすべて東京。

もちろん横浜に行くこともあった。目的は小説の取材である。私の小説はデビュー作からして舞台が横浜。その後もことあることに、「横浜は私のホームグラウンドよ」ってな顔して横浜物を書き続けていた。でも横浜に知り合いも友達もいなかつたので、取材は表から見える範囲のものだけ。資料は既存の文献。多くの人が描くイメージ同様、私の横浜も、開港地、西洋の香り、モダンといった言葉の範疇を出ていかなかつかもしれない。

別の横浜が見えてきたきっかけは「メリーサン」である。

横浜に古くから住んでいる人、あるいは市を中心地あたりへよく出かけた人なら、一度や二度は彼女を見かけたことがあるだろう。顔は白塗り、髪は白髪、服も純白という白すくめの老女だ。あまりに異様な外見ゆえ、週刊誌が取り上げたこともある。終戦直後から街娼をしていたらしいという経歴に、本人が自分について何も語らないという神秘性が加わり、歌、芝居、小説のモデルにもなった。

メリーサンは観光案内に載っていない横浜だった。図書館の資料にも出ていない横浜だった。浜っ子に言わせると「メリーサン？ 昔からいるよ。それがどうかした？」というく

明るい闇鍋

山崎洋子



●山崎洋子(やまさき ようこ)：1947年、京都府生まれ。コピーライター、童話作家、シナリオライターなどを経て、現在は小説家。83年、『花園の迷宮』で第32回江戸川乱歩賞受賞。「ヨコハマ幽霊ホテル」「横浜秘色歌留多」「天使はブルースを歌う」など著書多数。最新刊は太平洋戦争前夜の魔都上海の空気をディープに描いた『炎精(かげろう)』(毎日新聞社)。ホームページはhttp://home9.highway.ne.jp/FUYUMOMO/

ういあたりまえの存在だったようだが、他所者の私には新鮮な衝撃だった。そしてふと、私と横浜はこの人をきつかけに、これまでと違う付合いを始めるかもしれない、という予感にかられたのである。

横浜は開港以来、短い期間で大震災、戦災と、二度も壊滅状態を体験している。しかし、もともとが開港という混沌の中から出発したせいか、二度ともたやすく回復した。そして港町らしい華やぎをまとっていくのだが、その華やぎは、米軍基地の街という危険や屈辱と背中合わせだった。そうしたあやうさ、したたかさが、たぶん際どい綱渡りをしてきたはずなのに、妖精のごとき風情を漂わせたメリーサンと重なつて見えたのだ。

メリーサンの背景を知りたくて人に会いはじめるとき、横浜に友人知人がたちまち増えた。その人がまた別の人を紹介してくれて……と人の輪が広がつていき、一年、二年たつうちには、私はすっかり浜っ子の仲間入りをしていた。驚くべきメリーサン効果である。

仕事の打ち合わせ、会食、買物、コンサートや観劇まで、もはや何をするにも横浜。故郷を聞かれるとき、「うつかり「横浜です」と言つてしまいそうになる。土地に馴染む最大の要素はやはり人である。親しい人、興味を惹かれる人が多ければ、そこが自分の街になる。つくづくそう思った。

メリーサンはどうなのか。なぜ彼女はこの街にいたのだろう

う。彼女は四年余り前に横浜から姿を消し、現在は故郷の養老院にいる。私の友人の一人は、昔もいまもメリーサンと親しく交流しているが、彼女は手紙で、横浜が恋しい、できることなら帰りたいと訴えてくるそうだ。立場上、怖いめにもあつただろうし差別もされたはずだ。それでも彼女は、横浜こそ自分の街だと懐かしんでいる。なぜだろう。

横浜は、誰でも参加することができる巨大な闇鍋だと思う。ベースは鰯だしに醤油でも、オリーブオイルや魚醤やトマトソースなどが勝手に放り込まれ、混ざり合つて独特的のスープを創りあげている。だしが混合なら材料も雑多で、どんな味に変化しているやら、なにが出てくるやらわかつたものではない。食べる人によってその味は「横濱」になつたり「ヨコハマ」になつたりする。

暗闇の中で囲むのではなく、海と空の青い光の中でつくり明るい闇鍋。メリーサンはその中にスパイスとして溶け込み、いい味わいをかもし出して人を驚かせ、にんまりとほくそえんでいたのではないだろうか。

私も最近になつて思う。横浜という闇鍋をつつき、「おお、こんなものが！」と躍り上がり落胆したりしているのはとても楽しい。でもそろそろ鍋の中身になりたい。ひとつまみのスパイスとなつて味に少々の変化を起こし、うん、こういうのもいいねと、人を頷かせてみたい。横浜は、そんな大きな夢を、ふと見させてくれたりもするのである。

芸人あつての劇場。 だから私は、芸人の味方という 立場をとっています。



プロデューサー
横浜「集」の仕掛け人たち
ENTERTAINMENT
玉置 宏さん ● 横浜にぎわい座館長

日本で初めて

市立の大衆芸能専門施設として

野毛にオープン。

今年4月、野毛にオープンした「横浜にぎわい座」は、日本初の市立の大衆芸能専門施設です。市の文化施設がほとんど出来上がったものの、大衆芸能専門の施設がない。まずは、それをつくるべきかどうかというところから委員会を組織して検討されました。

「くちもの」と言いましてね、落語や漫才は、広っぽではできない芸なんです。客席にマイクなしで声が届くのが理想で、ここも十年選手でしたら、マイクなしで後ろのお客さんまで声が届きます。表情も手によるようになりますしね。それがくちもの、大衆芸能のいちばん大切なところなんです。ですから昔の寄席はだいたい150席くらい。その代わり町内に1軒は寄席があった。横浜もどんどん寄席が多くなり、横浜駅西口の相鉄演芸場がなくなつて以来、定席は途絶えていたんです。そんなことも検討されて、話が出てから出来上がるまで7年かかっています。

横浜には、かつて「振座」という芝居小屋がありました。現在の伊勢佐木町にあって、その昔あの辺は振町と言つたそうです。それもあって施設の名前を一般公募したところ、

圧倒的多数で「にぎわい座」に決まりました。

市の施設ですから、月の半分は市民に開放しなくてはなりません。芸能ホールのほかに、地下には小ホールもあって、野毛の大通芸の人たちが練習したり、市民の皆さんが多目的ホールとして使っています。いろいろな使われ方に対応できるようにつくっていますから内容もさまざままで、民謡、吟、発表会などで10、11月はほとんど埋まっていますよ。

いい気持ちで芸人さんが
来てくれば、
自然に高座もあつたかくなる。

今、寄席はパワーを失っている業界です。

そういう段階でここを立ち上げたわけですか。そうとうな覚悟をして取り組んでいます。たとえば、東京では落語協会と芸術協会が10日ごとに寄席をやっています。ここでは11日から15日までを定期にして、両協会合同で出演するのを目玉にしています。これは、実は芸人に喜ばれています。というのも、最近誰々の何々の話がとても良くなつたという話を聞いても、普段は派が違えば会うこともない。ところが、ここでは自分の目で見て確かめることができます。これが、

私は芸人あつての劇場だと思っていますから、芸人の味方になる立場をとっていますし、かめることがあります。それが、

それが私の役目だと思っています。スタッフはホールの側ですからね。芸人さんが出たいという流れがでければ、自然に高座もあつたかなるんです。いい気持ちで芸人さんが来てくれば、必ずいい高座になる。いい高座をお見せすれば、お客様が来てくれるものなんです。だから、芸心が搔き立てられるいい楽屋を作りたかった。芸人は「寄席の樂屋じゃねえ」って言つてますがね（笑）。だって3階と4階それぞれに樂屋を設けたり、俳優さんがステージと同じ照明でマークを作れるよう、調整できるようになっていますから。ここでは東京と違つて、前座さんにも15分あげて、二つ目さんにも20分差し上げています。芸人というのは、お客様の前で数多く高座経験を積まなくては、芸が伸びないんですね。また、これから伸びる芸人さんを見つけるのが、お客様も楽しみなんです。べらんめえやらせるとまだだけど、所作がいいから踊りをやつているのかな、とかね。それがある日、何人が抜きで真打ちになつたり。とにかくこれだけいい舞台ができたわけですから、笑いの殿堂、ショーアップされた笑い芸なんかもどんどんやつていただきたい。いつか平成の名人と呼ばれる芸人から、「おれの芸は、横浜にぎわい座で積ませてもらつたよ」と言ってもらえたうれしいですね。

[玉置 宏(たまおき ひろし)]
1943年、川崎市生まれ。文化放送アナウンサーを経てフリーとなり「ロッテ・歌のアリバム」など数々の人気番組の司会を担当する。幼いころから寄席好きで、現在も「ラジオ名人寄席」(NHK第一)を担当。日本司会芸能協会会員。横浜にぎわい座は、落語、漫才、大道芸など、日本初の市立の大衆芸能の専門館として2002年4月にオープン。月の半分は市民に開放され、利用率も高い。開館時間は10:00~22:00(休館日: 不定)。問い合わせ先はTEL045-231-2525まで。ホームページは <http://www.city.yokohama.jp/me/yaf/>

ロケーションという面でも、いろいろな顔をもつ横浜は、映画の街になりやすいんですね。



フィルムコミッショングは、

横浜だけでなく、

日本の文化創造の入り口。

映画興行の仕事を始めて50年になるけれど、この世界に入る前は、映画をつくる側になりましたかつたんです。たまたま戦時中に引っ越しした家が大船の近くで、歩いてみると笠智衆さんとか、大船で仕事をやっている映画人によく出会った。だから、映画を身近に感じたんですね。でも、当時はコネや学力がなくてはなかなか入れない。そんなときに、近所の映画スタッフの方に声をかけられ、ロケーション先を探す仕事を手伝つたんですね。

映画はシナリオを読んで、セットがロケかを見分けなくてはならない。当時、私は絵描きになりたくて勉強していた。それが生きたんです。自転車で駆けぎり回つて、ロケ先を探し、場所をスケッチしました。採用されたりされなかつたりだつたんだけど、その違いが勉強になつたね。その後、叔父が映画館をつくることになつて、映画興行の道に入つたんです。高校2年のときでした。

最近はもう、大手の会社が映画を撮らなくななり、撮影所も縮小されたり、松竹・大船さんのようにになくなつたりするような状況で、オールロケーションの映画が増えてきた。私

は横浜生まれの横浜育ちで、長年この仕事を

しているから、横浜でのロケ先や、船を借りたいといった相談を受けたり、要するに私設

のフィルムコミッショング（FC）も手掛ける

ようになつたわけです。映画興行の世界に入つて45年くらいたつてまたふりだしに戻り、ロケ場所探しの時代にタイムスリップしたようなんですよ。でも民間で細々とやつているようでは、いい映画ができるわけがない。そこで行政に働きかけたんです。もともと外

国にはFCがあることは知つていて、興味を持つていた。日本も、とつくにつくらなくてはならない状況になつてましたんで。

横浜というのは、場所からいっても地理的なものからいっても、映画の街になりやすい。東京が近いし、港町で歴史もあり、国際的な匂いのする場所もある。ロケーションという意味では、いろんな面を持つてゐるんです。また港町というのは、いろんな人たちが出入りするから、入りやすいし出ていきやすい。そして住民は新しもの好き。何か新しいことをやろうとすると、みんなおもしろがつてやうとする土壤はできている。そういう意味では横浜の人たちには、協力体制が十分あります。日本にとってFCというのは、新しい文化を創造する入り口になるし、横浜にとつてほしいとか言つてるからなあ（笑）。

1人では限界がある。
だからC'TYという

チームをつくりた。

FC設立後は、民間としてどれだけ協力できるかというところで、シネマ・ダッシュ・チームヨコハマ（C'TY）をつくりました。今、映画学校を出ても映画づくりのチャンスつてないぢやないです。映画というのは、スタッフの仕事の種類が幅広い。だから人脈が必要で、それを手づる式に広げていくには1人じや限界がある。チームをつくつておけば、そこに直接情報が入つてきて、みんなが知ることができる。そうなると制作側も、C'TYに連絡しておけばいい、ということになります。そういう波及効果を狙つているんです。「横浜大部屋」と名付けた俳優部門には、ユニークな人もいっぱいいますよ。

今後はこのチームで映画をつくつていきたくですね。それからスタッフルーム。これも行政に今、要望を出しているところで、ミーティングルームやパソコン、ファックスが使えて、プロデューサーがお金だけ持つてくれば、横浜で1本映画が撮れるというよつな空間が欲しい。でも、実現はどうかなあ……。洗濯機入れてくれとか、屋上に物干し台をつけてほしいとか言つてるからなあ（笑）。

福寿祁久雄（ふくじゅ きくお）

1935年、横浜市西区生まれ。高崎時代から映画興行にたずさわり、現在横浜に6館、東京・渋谷に1館を経営している。行政に働きかけて2000年10月に横浜フィルムコミッショングを設立させた。その後FCの後方支援として、C'TYというサークルも設立。横浜映画祭やフランス映画祭の仕掛け人でもあり、永瀬正敏主演の映画「濱マイクシリーズ」の企画を手掛けるなど、横浜の映画世界に強く述べている。

ジャンルを超えて取り込んでいく。
そういう意味では、横浜とジャズは似ているのかも知れない。



横浜「集」の仕掛け人たち
JAZZ
小室恒彦さん ● ジャズスポット「ドルフィー」オーナー

「ヨコハマ本牧ジャズ祭」が

初めて開催された年に、
店をオープン。

「ドルフィー」は、最初本牧につくったんです。それが1980年で、「ヨコハマ本牧ジャズ祭」が始まった年と同じです。そのジャズ祭最初にやろうとしていたスタッフが僕の知り合いだったわけで、スタッフ連中も店に出入りしてくれていたんですね。90年に店が今の場所に移ってからも、スタッフは毎週土曜日にここに集まって会議をやるんです。それがずっと続いて、基本的にうちは金曜と土曜日はライブをやらなくなつたんですね。

横浜のジャズのイメージは、ますます強くなっていますね。ジャズの店も増えたし、ライブをやる店も増えた。ジャズは、なぜか横浜に馴染みやすいんです。うちの近くに「ちぐさ」という戦前からやっているジャズ喫茶があるんですが、その影響も大きいと思います。戦後すぐ、進駐軍のキャンプでしか手に入らないレコードを「ちぐさ」さんのところでかけていて、それを聴きに渡辺貞夫さんや日野皓正さん、秋吉敏子さんが通っていた。横浜はジャズの町といったイメージは、そこから強くなり始めたんじゃないですかね。

横浜生まれで横浜育ちというミュージシャンも、けつこういます。日本でも一、二を争うバンドに「Fuse」というのがあるんですが、4人のメンバーのうち、3人まで横浜育ちです。その中のサックスの井上淑彦さんという方は、日本有数のテナーマンで、彼も山手に育つた人です。その井上さんが若手のミュージシャンに機会を与えるためにリーダーでやってくれているのが「プロジャムセッション」で、これは月に1回やっています。若手も井上さんたちプロとセッションできるというも

ので、参加者が毎回40~50人いるんですよ。ここで育つたミュージシャンが、プロとなり、横浜を拠点に全国、全世界へと羽ばってくれたら嬉しいですね。

この人とこの人がいつしょに演奏したらおもしろいかな、
というのがビビットとくる。

今の店をつくるときには、木で全体をつくりたいなどというのはあつたんです。落ち着く感じに合うかな、と。それで床に6センチくらいの木を敷き、テーブルもカウンターも木にした。そうしたら、音の響きがとてもいいと言われるようになつたんです。日本を代表するドラムの富樫雅彦さんなんかは、「これだけいい音はスタジオにもない」というこ

とで、ライブのレコーディングをここでやつたんですよ。

僕は、あんまりジャンルは気にしてないんです。ジャズ 자체、いろんな音楽を取り込んで進化していく歴史がありますからね。基本的にはジャズが中心ですが、世界の民俗音楽、あと最近は邦楽、和楽器ですね。琴、和太鼓、尺八、それがジャズと融合してすばらしい世界をつくっているんですよ。

ミュージシャンって、意外に横のつながりがなかつたりするわけです。ドルフィーにはいろんなミュージシャンが来てくれるのでも、この人とこの人がいつしょにやつたらおもしろいかな、というのがビビットとくるんですよ。ジャズ同士もありますし、ジャンルを超えてのセッションもあります。あんまりいじりますが、いや、いけないんですけどね。でも、これまでのところ皆さん気に入つてくださつて、ここで生まれた組み合わせが他の場所で見られたりすることもあります。今後も、うちなりのミュージシャンの組み合わせの演奏をつくっていきたいなというのはありますね。

ミュージシャン自身がジャンルを超えて音をつくつていくというのは、横浜ならではかもしれません。横浜もいろんな人たちがいる町ですから、ジャンルを超えて取り込むような、なんかそういうものがあるんでしようね。

小室恒彦 (こじろ つねひこ)

1947年、横浜市中区本牧生まれ。80年に本牧に「ドルフィー」を開設。店名はジャズミュージシャン、エリック・ドルフィーにちなんでつけられたもの。90年に現在の中区宮川町に移転し、ライブを中心とした店となる。「ドルフィー」の営業時間は18:30~1:00、金・土曜は~5:00(定休日なし)。ライブは金曜と土曜以外毎日。スケジュールはホームページに掲載。

問い合わせはTEL: 045-261-4542まで。
ホームページは<http://member.nifty.ne.jp/dolphy/>

サッカーが食事のような日常の楽しみになつてほしい。



プロデューサー
横浜「集」の仕掛け人たち
SOCER
木村浩吉さん

株式会社(株)「ふれあいサッカー」
プロジェクト・ディレクター

合言葉は「見る」「プレーする」「語る」でふれあう場を提供。

「ふれあいサッカー」プロジェクトは、サッカーを「見る」「プレーする」「語る（仲間で語り合う）」を合言葉に、サッカーとふれあう場を提供して、あらゆる角度から普及させ盛り上げていこう、というのがコンセプトなんです。今年6月にあったワールドカップに向け、2000年にスタートしました。ベースはサッカーキャラバン。横浜市内に約360ある小学校を回って、5年生全員を対象にサッカーの授業をするんです。去年だけで118校を回り、8657人が参加しました。授業の最初に「サッカー嫌いな人は?」って聞くんですが、女の子はほとんどが手を挙げますね。でも、ルールに関係なく遊びから始めてゲームまでやると、1時間40分の授業が終わつた時には、90%以上の児童が「おもしろかった」と言つてくれます。

大人（18歳以上）を対象にしたENJOY FOOTBALLというのもあります。ネットで参加者を募集したら、最初に集まつたのは約20人。結構楽しいもんだから、仲間が仲間を連れてきて3ヶ月ぐらいで60人に。だから、去年からは3グループに分けました。少し残

念なのは、半分が横浜市民ではないこと。できれば、市内の人来てほしいですね。障害者サッカーにも力を入れています。これは肢体障害者、知的障害者、電動車椅子と3部門に分かれていますが、肢体障害者部門の整備が遅れているんです。だから、横浜ラボール（障害者スポーツ文化センター）と交流をとつて、こちらをメインにしています。

よく「障害者サッカー」って言いますけど、実際はそんなに隔たりないんです。脚に障害のある子が一人、ENJOY FOOTBALLに来てるんですが、見た目分からなくても、走り始めれば分かるじゃないですか。そしたら、一緒にやつてる周りの大人がうまくフォローしてくれる。ああ、サッカーフォローリングだなあって思います。

ほかにも緑区、瀬谷区でのフットサル教室、インターネットサッカークリニックなど、さまざまな活動を行っていますが、この事業への去年の参加者は延べ約2万人になりました。在日外国人の多い横浜ですから、今後は外国人を対象に何か考えていく予定です。

勝ち負けのない

生涯スポーツとしてのサッカーが

私はね、38歳までずっと勝ち負けばかりの、

狭い世界でサッカーをやつていたんです。ところが、ここ2年半やつて普段のほうは何もないんですね、勝ち負けが。最初は「なんでおれが……」って思いましたけど、ようやく最近、実は一番大事なところだと気付き、楽しくなつてきました。F・マリノスは、地域にいろいろ還元していくかなきやいけないっていう気持ちをすごく持つていてるんです。左伴社長にも「お前がやつてることはすごく大事だし、これからももっとやらなきゃいけないんだよ」とか、よく言われます。

日本サッカー協会は、サッカー人口を表すのにJリーグを一番上にしたピラミッドを使いますけど、みんながプロを目指しているわけじゃない。本当は生涯スポーツとしての大好きなピラミッドがあって、その横に競技力向上としてのピラミッドがあると思うんです。たとえ将来プロにならなくても、オヤジになつてもサッカーをやれる環境があればやるし、「なぜプロはあんなに簡単にやれるんだろう」と思えば、プロの試合を見に行く。飯を食つようにサッカーが日常の楽しみになつてほひつて、声を大にして伝えたいですね。欧洲とか南米とか、100年以上プロサッカーの歴史のある国は自然とそういうふうになつていつたはず。日本だって、そんな遠い将来じやないと思いますよ。

YC & ACは、国籍を超えて同じスポーツを愛する人たちが交流する場です。



プロデューサー
横浜「集」の仕掛け人たち
SPORTS CLUB
ジル・ゴーリさん

横浜カントリー＆アスレティッククラブ
(YC & AC) 総支配人

明治の日本人に

西洋のスポーツを伝えた

元祖スポーツクラブ。

横浜カントリー・アンド・アスレティック・クラブ(YC & AC)は、1868年(明治元)に貿易商人として横浜に来ていたイギリス人、ジェームス・P・モリソンたちが、日本で初めてのクリケットチーム、横浜クリケット・クラブ(YCC)をつくったのが始まりです。1884年(明治17)には、YCCと横浜アマチュア・アスレティック・アソシエイション(YAAA)、横浜ベースボール・クラブ(YBBC)、横浜フットボール・クラブ(YFBC)の4つの団体が合併して、横浜クリケット・アンド・アスレティック・クラブ(YCAC)という名前になりました。

当時、クラブは今の横浜スタジアムがある場所にあつたのですが、1912年(大正元)に現在の中区矢口台の土地を購入しました。

その後、ユニオン・クラブと合併し、現在のYC & ACとなつたわけです。会員の国籍は

約38カ国で、ヨーロッパが4割、アメリカが2割、オーストラリア・ニュージーランド・アジア・南アフリカ・北ヨーロッパで3割、残る1割が日本人です。

ここではサッカーやラグビー、ホッケー、

クリケット、テニス、野球、バドミントン、スカッシュなど、約28種目のスポーツをすることができますし、バーやレストランで人と話したり食事を楽しむ人もいます。サッカー、ラグビー、ホッケー、クリケット、野球は毎週末に日本人や他のクラブの外国人たちと試合を行っています。また、生け花や書道など、日本文化を伝える教室もあります。

YC & ACは、日本にラグビーを伝えたクラブとしても有名です。1899年にYCAのメンバーだった横浜生まれの英語教師、エドワード・クラークが慶應義塾の学生にラグビーを教え、1901年にクラブと慶應との間で試合をしたのが、日本で初めてのラグビーの試合と言われています。今でも慶應大

学とは年に1回、記念試合を行っています。

横浜のにぎやかさの中には

人間味があつて、

東京より住みやすい。

自身、このクラブの総支配人になると私は思ひよらないことでした。フランスで生まれ、小さいころはリビア、インドネシアなどいろいろな国に滞在しました。大学を卒業してからは仕事で海外へ行くことが多く、初めて日本に来たのは14年前です。そのときに現地の妻と出会って香港で結婚。子どもができ

て9年前に再び日本に来ました。

最初は東京の三鷹に住んだので、横浜は遠く感じていたのですが来てみると東京より住みやすいですね。にぎやかだけど、人間味があるからうるさくない。緑のスペースが多いし、海も近くに見える。伊豆半島も近いから、温泉に行きたかったらすぐ行けます。治安がよいのも、子どもがいる家庭にとってはいいですね。あとは、季節感がある。春は花見、夏は花火。そういう違いが一年を通してあります。精神的にとてもいいと思います。

フランスには年1回、バケーションをかねて帰ります。毎年夏だったんですが、今年はワールドカップがあったので冬になります。ワールドカップ開催中はクラブハウスにプロフェクターが設置されて、とてもにぎやかでしたよ。各会員がそれぞれのやり方で自分の国の応援し、クラブの中だけでもずいぶん盛り上がりました。サッカーを日本に持ち込んだのも合併前の横浜フットボール・クラブですから、それを思えば隔世の感がありますね。

YC & ACは来年、YCCから数えて創立135年を迎えます。日本最古の会員制クラブとして、今後も日本における西洋スポーツの発展と、さまざまな事業を通じて国際親善に貢献していきたいと考えています。

24時間、365日、ラグビーひとつ筋に没頭すれば 未来は変わる。



プロデューサー
横浜「集」の仕掛け人たち
RUGBY
春口 廣さん ● 関東学院大学ラグビー部監督

大切なのは基本技術。
そこから戦術、戦法に
発展していく。

関東学院で監督やって28年、12年前くらいから強くなつてきましたが、伝統があるとは思つていません。新興チーム、新しい力、ほくらはそれでいい、と。今年1月に大学選手権で早稲田に勝つて優勝した時、清宮（早稲田監督）が「これから長い付き合いですよ」と言ってくれたんです。やつと認めてくれた、ほくらの目標は終わつたつて。でも、関東学院にとつては新たなスタート。伝統校とのいう関係を長く続けたいな、と思いました。

ここに至るまでは苦労しました。最初はド素人の集団。ラグビーをやつていた、といふくらいのはいても、それこそ有名な選手は誰一人いない。15人そろえるのも大変でした。居酒屋でアルバイトして昼間寝て、練習だけ来て夜になつたら、またアルバイトに行くような学生もいました。でも、生活をきちんとしないとラグビーはできない。練習は命懸けですから。だから、まずは合宿所をつくつて生活管理を徹底しました。煙草を吸うな、酒は飲むな、コーラもインスタント類も駄目……とかね。一生懸命やれば未来は変わる。とにかく24時間、365日、つて言いました。

今このチームはもう、煙草のことでもお酒のことも言わなくてすんでいます。祝勝会で飲む機会があつて「1、2年生は未成年だから駄目だぞ」と言つても、にこっと笑いながら「大丈夫、先生」つてね。ここまできたかつて感じ。煙草やめるのに苦労した卒業生たちも、社会人になってそういうことをひとつずつ克服して頑張つている。だから、チームは大きくなつてきたのかなと思います。

技術指導でも大切なのは基本。ラグビーの要素はハンドリング、キッキング、ランニング、コンタクトの4つですが、周囲から「春口は基本練習しかしない」と言われるぐらいしつこくやりましたね。例えばランニング・パスなんて、試合中にはないこと。特に、プロップが球を持つて100メートル走るなんてことは絶対にない。だけど、この練習の必要性は何かというと、走りながらバスができるという基本技術なんです。だから、100メートルが長ければ、10メートル走る中でやるとか、走つたらできなら歩いてやれ、とか。そこから戦術、戦法に発展していくんです。

日本いろいろなスポーツ発祥の地でありますながら、横浜市のスポーツは何かつていうと、あまりイメージわかないでしょ。それなら地場の中小企業の人たちみんなが集まつて、クラブチームをつくるなかつて考えています。あるいは、その人たちにスポンサーになつてもらうのもいい。横浜のチームが神戸製鋼と対戦したら、横浜対神戸。すごくいいでしょう。これ、ほくらの夢なんです。

それに、みなとみらい21にあるフットサル場、あそこ、ワールドカップが終わつたらラグビー場にしましよう、でなきや、ラグビー場も造つてくださいって話しててるんです。赤煉瓦で門を造つて、屋根がちよこつとかかつてる。スコットランドのマレー・フィールドみたいにね。アイルランドのナショナルスタジアムはスタンンドの下を電車が通るんですけど、ああいうのもどこかに造つたりしてね……おしゃれですよ。そういう横浜らしいラグビー場があつたらいいなあと思いますね。

そんな中から、何人か日本代表選手も出ました。日本は来年のワールドカップ出場を決めましたが、予選では数人のOBが代表に選ばれました。なかでも箕内（拓郎）がキャプ

テンになつたのはうれしかつたですね。本番では決勝トーナメントに進出できれば御の字ですが、応援しています。

ラグビー発祥の地・横浜で クラブチームをつくるのが ぼくの夢。

日本いろいろなスポーツ発祥の地でありますながら、横浜市のスポーツは何かつていうと、あまりイメージわかないでしょ。それなら地場の中小企業の人たちみんなが集まつて、クラブチームをつくるなかつて考えています。あるいは、その人たちにスポンサーになつてもらうのもいい。横浜のチームが神戸製鋼と対戦したら、横浜対神戸。すごくいいでしょう。これ、ぼくの夢なんです。

それに、みなとみらい21にあるフットサル場、あそこ、ワールドカップが終わつたらラグビー場にしましよう、でなきや、ラグビー場も造つてくださいって話しててるんです。赤煉瓦で門を造つて、屋根がちよこつとかかつてる。スコットランドのマレー・フィールドみたいにね。アイルランドのナショナルスタジアムはスタンンドの下を電車が通るんですけど、ああいうのもどこかに造つたりしてね……おしゃれですよ。そういう横浜らしいラグビー場があつたらいいなあと思いますね。

優れた「シンセンツヤ インフラを 有効活用しよう!」

UBSウォーバーグ証券 株式調査部長

松岡 真宏

流通業界を中心としたアナリストという仕事をしてきたため、今後の個人消費動向について質問を受けることが多い。実は、日本の個人消費を占う上で、所得や失業率といったマクロ指標よりも圧倒的に重要なのは「消費者マインド」である。日本における失業率という指標は数十年という長い期間でとつてみると一貫して上昇トレンドにあり、なにも1990年代になって急に上昇し始めたわけではない。また、日本には約1400兆円という莫大な個人金融資産もあるし、貯蓄率も高いわけであるから、所得が若干増減するよりも各消費者が貯蓄を増やしたり減らしたりするほうが、個人消費への影響は大きい。

では、消費者は何によつて消費を増やしたり、減らしたりするのであらうか？ それは

「消費者マインド」である。貯蓄が豊富な日本において、個人消費を占う上で「消費者マインド」は忘れてはならない重要なファクターである。消費者マインドを引き上げられるような政策を政府が行つことで、個人消費を引き上げることは十分に可能なのである。

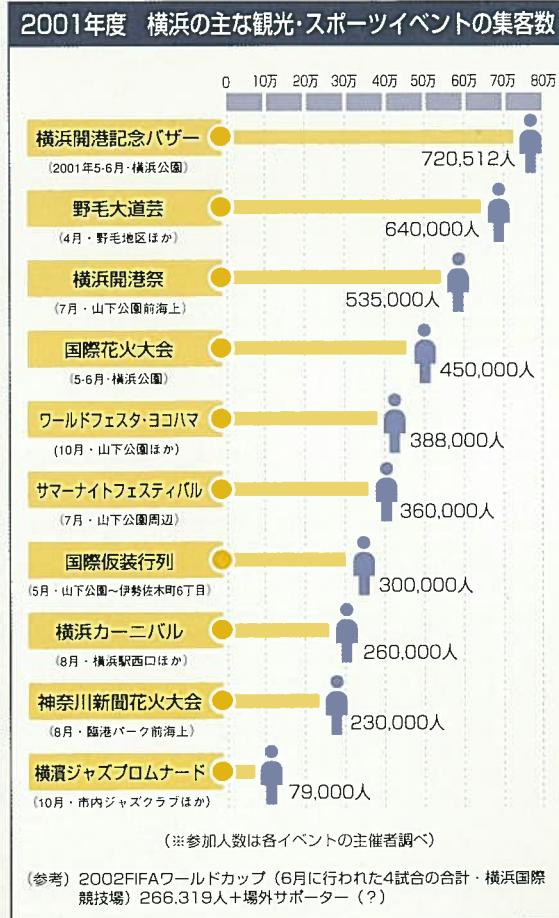
こうした観点から、横浜、そして横浜における文化・スポーツイベントを考えてみよう。真っ先に思い浮かぶのは、今年の日韓共催のワールドカップサッカーである。私を含めて多くの人は、今回のワールドカップによって、文化・スポーツイベントがあれほどまでに人々のマインドに大きな影響を与えるといふことを思い知られたのではなかろうか。

サッカーの試合が行われた自治体は（あるいは日本全体でも）、日本や韓国といった民族のチームが勝ち進むにつれ、人々の高揚感が街中にあふれ、財布の紐もつい緩んだのではないかろうか。また、自宅やスタジアムなどさまざまな場所で人々は熱心に応援を行い、勝利の余韻や悔し涙とともに普段よりも多くの飲食を行つた人も少なくないと思われる。そもそも、試合やその応援や報道とともに、大量に人々が移動することで交通が活発化すること自体、大変な経済効果があつたと推測される。

もちろん、ワールドカップを毎年、横浜で行えるわけではない。しかし、横浜ベイスターズや横浜F・マリノスなど地域の消費者マインドを大きく左右できるようなコンテンツを、横浜という街はすでに十分に保有している。また、横浜球場や国際試合が行えるサッカーフィールドが建設されるとともに、横浜は、文化・スポーツイベントをするためのコンテンツやインフラは十分すぎるほど整つてている。あとは、それをいかにコーディネイトして魅力を高めるかである。

カースタジアム、コンサートや文化催事が可能な大型ホテルといったインフラも既に十分に整つてゐる。要は、こうしたコンテンツやインフラを地域ぐるみでいかに有効活用するかにかかってくる。これが十分に機能すれば、地域住民全体の消費者マインドの活性化という観点から莫大な経済効果を生み出すことが可能であろう。

例えば、身障者に更に目を向けることはどうだらうか？ 既に、横浜は1998年に「全国身体障害者スポーツ大会」を開催したり、2008年のパラリンピックの誘致を行つたりするなど（残念ながら落選してしまつたが）、もども障害者のスポーツ振興への取り組みが他の地方自治体に比べて進んでいる。しかし、現時点ではこうした取り組みが必ずしも全国ベースで認知されているとは言えず、さらにこれを推進していくことで横浜という街が良い意味でユニークな存在になることが可能であらう。



一步踏み込んで、あらゆるスポーツの身障者の全国大会を横浜に招致してみてはいかがであろうか。数百人という身障者が一度に横浜に来ても大丈夫な街づくりをすることで、横浜という街の他の都市との差別化を図つていくことが可能となる。もちろん、身障者にやさしい歩道や宿泊施設の整備など取り組むべき課題は多いが、これらに伴う公共投資は実に意味ある投資ではなかろうか。また、地元金融機関や地元企業にとつても、こうした

投資に対する費用負担は将来的にリターンとして戻つてくる「意義ある種まき」となる。いずれにせよ、現在は日本全体の経済が成長する局面ではないので、いかに各地域が魅力を高めて差別化した街づくりができるかによつて、地域経済の成否が決まってくる。横浜は、文化・スポーツイベントをするためのコンテンツやインフラは十分すぎるほど整つてている。あとは、それをいかにコーディネイトして魅力を高めるかである。



YOKOHAMA NOTE
of
an ANALYST



松岡真宏（まつおか まさひろ）
1967年、愛知県生まれ。90年、東京大学経済学部卒業後、野村総合研究所、バークレイズ証券を経て、97年にUBSウォーバーグ証券会社入社。野村総合研究所在職中より、流通業界を中心にアナリストとして活動後、99年よりUBSウォーバーグ証券株式調査部長、およびマネージングディレクター。現在、「週刊ダイヤモンド」に「コペルニクス主義」連載中。著書に「問屋と商社が復活する日」「百貨店が復活する日」（ともに日経BP社）、『小売業の最適戦略』（日本経済新聞社）がある。

2002年ヨコハマ・イベント 2002 YOKOHAMA EVENT CALENDAR(Oct.-Dec.)

10月 October

- 1日(火) 国慶節
場所:中華街全域
内容:中華人民共和国の建国記念日。獅子舞、パレードなど。
横浜華僑総会/045-621-0634
- 5日(土) 横浜能楽堂企画公演「狂言再発見」
第2回「私は、こう演じる」
場所:横浜能楽堂
内容:狂言「右近左近」大倉流・茂山千作、狂言「右近左近」大倉流・茂山千之丞。
横浜能楽堂/045-263-3055
- 6日(日)まで ジャン・マルク・ビュスタミント展(横浜美術館企画展)
場所:横浜美術館
内容:フランスの現代美術作家、ジャン・マルク・ビュスタミント(1952年生)の日本で初めての個展。
横浜美術館/045-221-0300
- 10日(木) 双十節
場所:中華街全域
内容:中華民国の建国記念日。民族パレード・獅子舞・龍舞など。
横浜華僑総会/045-681-2114
- 上旬 YOKOHAMAトレインフェスティバル
場所:新都市プラザ
内容:ステージイベントや写真パネル展のほか、「鉄道の日記念物品販売会」など。
鉄道の日関東実行委員会
045-211-7239

■上旬 アート緑日

- 場所:ポートサイド公園
●内容:約500名のアーティストが絵画や写真、陶芸作品、木工、ガラス工芸などの作品を、1坪のショップに出品。
開実行委員会/045-671-3857

■上旬 ワールドフェス・ヨコハマ山下公園

- 場所:山下公園
●内容:世界各国の「衣食住遊」を体験できるお祭り。各国名物料理や音楽・舞蹈の披露、民芸品の販売も。
開実行委員会/045-671-7423

■12日(土)~11月24日(日) 生誕100年記念展

- 歌ひと吉野秀雄
●場所:県立神奈川近代文学館
●内容:神奈川県立近代文学館
045-622-6666

■12日(土)~11月17日(日) 妻わり兜一戦国の終わりと桃山文化の訪れ

- 場所:神奈川県立歴史博物館
●内容:さまざま変わり兜を展示し、新しい時代を迎える武士たちの意識をとらえる。

■12日(土)~11月24日(日) 庶民へのまなざしー渋沢敬三の世界ー

- 場所:横浜市歴史博物館
●内容:日本の資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一を祖父として、財政界で活躍した渋沢敬三は、一方では庶民のくらしに強い关心を持ち、民俗学や

民具学などの分野で大きな業績を残した。

開:横浜市歴史博物館

045-912-7777

■19日(土) 幸田聰子コンサート ~美空ひばりオン・ヴァイオリンそしてクラシック~

- 場所:閑内ホール
●内容:閑内ホール/045-662-1221

■22日(火) 韓農芸芸団横浜公演

- 場所:閑内ホール
●内容:閑内ホール/045-662-1221

■26日(土) ヨコハマふるさと祭り

- 場所:横浜公園
●内容:模擬店コーナー、福祉コーナー、チャリティコーナーなどに加え、ステージでは太鼓演奏、ライブなど。勤労者による横浜盛り上げのお祭り。
開:実行委員会/045-671-2342

■26日(土)~11月23日(土・祝) 菊花展

- 場所:三溪園
●内容:秋の代表花である菊。大菊・懸垂・古典菊・江戸菊・だるま作りなど、約900点の菊花の競演。
開:三溪園保勝会/045-621-0635

■26日(土) 2003年1月13日(月・祝) 生誕100年記念 ヴィクト・ラム展(横浜美術館企画展)

- 場所:横浜美術館
●内容:キューバ出身のシェルレアリスム後期を代表する画家の一人、ラムの日本で初めて開催される回顧展。
開:横浜美術館/045-221-0300

カレンダー(10月~12月)

11月 November

■1日・13日・25日 金刀比羅・大鳥神社酉の市

- 場所:金刀比羅・大鳥神社(中区真金町)
開:045-231-3208

■2日(土)~3日(日) 横浜市招待国際ピアノ演奏会 ガラ・コンサート2002

- 場所:横浜みなとみらいホール
●内容:2日(土)/横山幸雄(日本)、フレイン・セルメット(トルコ)、3日(日)/アレッシオ・バックス(イタリア)、小山雅恵(日本)。
開:横浜みなとみらいホール
045-682-2020

■上旬 横浜マラソン

- 場所:山下公園→本牧ふ頭→市民公園→山下公園
●内容:海沿いの道を走るレース。ハーフマラソンと10キロのロードレース(車いす部門あり)の2部門がある。
開:大会事務局/045-651-9990

■上旬 馬車道まつり

- 場所:中区馬車道
●内容:人力車や本物の馬車、鹿鳴館時代の衣装を身にまとう人々が行き交い、文明開化の雰囲気を楽しめます。
開:大会事務局/045-641-4068

■上旬 ハマ展

- 場所:横浜市民ギャラリー(中区)
●内容:市民による用賀・日本画、彫刻・写真などの作品展。
開:横浜市民ギャラリー
045-224-7920

■10日(日) ブダペスト・フィルハーモニー弦楽団

- 場所:横浜みなとみらいホール
●内容:巨匠指揮者と数多くの名演をかさね、来年創立150周年を迎えるヨーロッパ屈指の名門オーケストラ。
開:神奈川芸術協会/045-453-5080

■17日(日) リッカルド・シャイ指挥ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団

- 場所:横浜みなとみらいホール
●概要:シャイーとともに絶大な人気を誇るヨーロッパの超名門オーケストラ。
開:横浜みなとみらいホール
045-453-5080

■23日(土・祝) 横浜能楽堂企画公演「狂言再発見」

- 第3回「語りと舞の美学」
●場所:横浜能楽堂
●内容:狂言「棒縛」と泉流・野村萬斎、狂言「通内」大蔵流・山本剛直。
開:横浜能楽堂/045-263-3055

■23日(土・祝)~12月15日(日) 紅葉の歩道と重要文化財聴秋閣・春草軒公開

- 場所:三溪園
●内容:小さな渓谷沿いの遊歩道と2棟の古建築、聴秋閣・春草軒界隈は、紅葉のころ季節あざやかな色彩につづられる。
開:三溪園保勝会/045-621-0635

■30日(土)~2003年1月12日(日) 松本コレクションー井上良彦の陶芸ー

- 場所:神奈川県立歴史博物館
●内容:市民による用賀・日本画、彫刻・写真などの作品展。
開:横浜市民ギャラリー
045-201-0926

12月 December

■21日(土) 横浜能楽堂企画公演「狂言再発見」第4回「言葉の魅力」

- 場所:横浜能楽堂
●内容:狂言「富士松」大蔵流・山本泰太郎、狂言「未広」和泉流・野村又三郎他。
開:横浜能楽堂/045-263-3055

■22日(日)~23日(月) 第2回横濱学生映画祭

- 場所:横浜市開港記念会館
●内容:Yokohama Student Film Festival
開:横浜アートプロジェクト
0467-24-1740

■31日(火) 横浜港除夜の汽笛・中華街の爆竹

- 場所:山下公園・中華街
●内容:横浜港に停泊中の船が夜12時に汽笛を鳴らして新年を祝う。中華街では爆竹を鳴らす。

横浜の最新イベント情報

ここに紹介したイベントは、開催日、内容などを更新される可能性もあります。

横浜の最新イベント情報は下記の定期刊行物、またはホームページをご参照ください。
「広報よこはま」毎月10日発行。市役所・各区役所など無料配布。

①横浜市市民局広報課/045-671-2332
『ヨコハマ文化情報』前月27日発行。市役所・各区役所・市内文化施設などで無料配布
②横浜市文化振興財団/045-682-4105
(財)横浜観光コンベンション・ビューロー(VCB)
<http://www.city.yokohama.jp/me/yccb>

《婚約者》1950年 油彩・カンヴァス 105×84cm 個人蔵 Le Fiancé, 1950, Private Collection, Paris.

生誕100年記念
ヴィフレド・ラム展
—変化するイメージ—

横浜美術館 Yokohama Museum of Art

シュルレアリスム以降を代表する画家の一人、
キューバ出身のヴィフレド・ラム(1902-1982)の画業を回顧する。

会期 ■ 2002年10月26日(土)~2003年1月13日(月・祝)
休館日 ■ 毎週木曜日、12月29日~1月3日
会場 ■ 横浜美術館
TEL 220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 TEL 045-221-0300
URL <http://www.art-museum.city.yokohama.jp/>
観覧料 ■ 一般¥1200(¥1000) 高大生¥800(¥700) 小中生¥400(¥300)
※()内は20名以上の団体料金。※本展のチケットでコレクション展もご覧いただけます。

WILFREDO LAM

Yokohama Museum of Art
CLASSIC LIVE

クラシックライブは、横浜美術館のグランドギャラリーで開催されるミニコンサートです。

横浜信用金庫は、横浜在住の音楽家を中心としたこのクラシックライブに協賛しています。

会場 横浜美術館グランドギャラリー

演奏日時 ヴィフレド・ラム展開催中の毎週土曜日14:00~14:30

入館料 無料（展覧会観覧料は別途）

問い合わせ 横浜美術館振興課／TEL：045-221-0318

第一期

プロデューサー 笹井美智世
(ピエントミュージック)

2002年10月26日(土)~11月16日(日)

- 10月26日(土)
ルイス・サルトール
ギター、チャランゴ、ボーカル
 - 11月2日(土)
鬼武みゆき(おにたけ みゆき)
ピアノ
 - 11月9日(土)
永原 元(ながはら げん)
パーカッション
 - 11月16日(土)
瀬木貴将(せぎ たかまさ)
サンボニーヤ、ケーナ
- ※同日19:00より、「風の市場から瀬木貴将 with 佐山雅弘(ピアノ)」の有料コンサートも開催されます。

総合プロデューサー
齋藤鶴吉
(横浜音楽文化協会会長)

第二期

プロデューサー 神谷百子
(マリンバ奏者・洗足学園講師)

2002年11月23日(土)~12月14日(日)

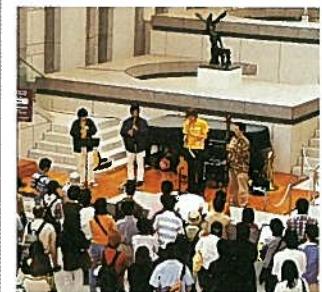
- 11月23日(土)
木次谷紀子(きじや のりこ)
マリンバ
 - 11月30日(土)
打楽器集団「男群」
(だがっくしゅうだんおぐん)
山澤洋之(やまざわ ひろゆき)
マリンバ
 - 12月7日(土)
小林裕子(こばやし ひろこ)
ピアノ
 - 12月14日(土)
SteelDrumBand「TinDollars」
(スティールドラムバンド ティンダラーズ)
比嘉美由樹(ひが みゆき)
テナーバン
- 當間由理子(とうま ゆりこ)
ダブル・セコンド
坪根剛介(つねね ごうすけ)
ドラム、パーカッション

第三期

プロデューサー
株式会社ヤマハミュージック横浜

2002年12月21日(土)~2003年1月11日(日)

- 12月21日(土)
佐藤祥代(さとう さちよ)
ピアノ
- 12月28日(土)
日向弥生(ひなた やよい)
フルート
- 1月4日(土)
宅間政彰(たくま まさあき)
マリンバ
- 1月11日(土)
向井小百合(むかい さゆり)
ピアノ



次号予告

『横浜ルネサンス』第2号は、12月2日(月)に発行の予定。次号の特集は横浜の「商(あきない)」。商店街や商業施設で新しいチャレンジに取り組んでいる横浜商人のみなさんをご紹介いたします。どうぞ期待ください。

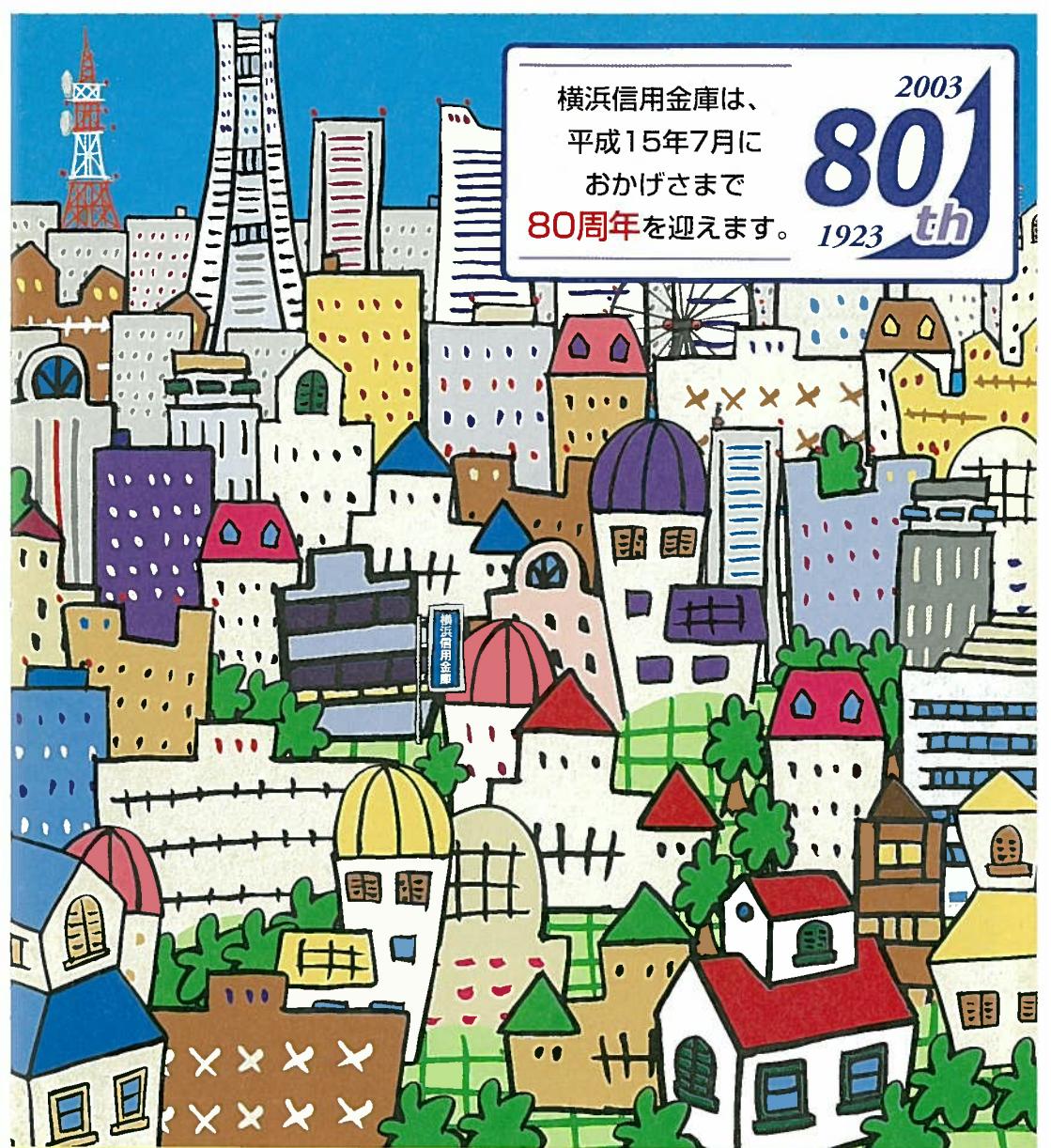
©横浜信用金庫 Printed in Japan.
本紙記事の無断転載・複写を禁じます。

※本誌に関するお問い合わせは、
横浜信用金庫 総合企画部／TEL: 045-651-1451(代)まで

横浜ルネサンス NO.1「集」
2002年10月1日発行

制作: 横浜信用金庫80周年記念委員会
『横浜ルネサンス』編集室
住所: 横浜市中区尾上町2-16-1
TEL: 045-651-1451(代)／FAX: 045-651-2303
<http://www.yokoshin.co.jp/>

デザイン: (有)クロスロード／撮影: 川村たかを



横浜信用金庫は、

平成15年7月に

おかげさまで

80周年を迎えます。

2003

80
th
1923

《よこしん》は平成15年、80周年を迎えます。

《よこしん》はいつの時代も地域の皆さまの暮らしや事業のサポートに

幅広くお応えしてまいりました。

これからも“よこはま”とともに歩んでまいります。

たしかな明日のお手伝い



横浜信用金庫

《よこしん》ホームページ <http://www.yokoshin.co.jp>

神奈川・東京に60店舗